

## 全日制 2 学期始業式講話

令和 2 年 8 月 24 日

全校のみなさん、おはようございます。

いよいよ今日から 2 学期が始まります。暑さと、コロナの拡大が続く中ですが、無事 2 学期の授業が開始できること、心からうれしく思っています。

短かった夏休み、みなさんにとって、どんな夏休みだったでしょうか。

今年は、いつもとだいぶ違った夏になりました。毎年恒例の行事が中止になったり、人の行き来の自粛が呼びかけられたりと、寂しい思いをしたり、不自由な思いをした人も多かったと思います。

今年の夏忘れてならないのは、日本が太平洋戦争に敗戦してから、ちょうど、この 8 月 15 日で 75 周年の節目を迎えたことです。

多くの人が、この戦争で命を落としたことや、戦後、焼け野原の中、食糧難などの大ピンチを乗り越え、先人達が、今の豊かな社会を築き上げてきたことを忘れることはできません。

大きな節目の年として、戦争を体験した人たちが、どんどんいなくなっていること。また、その体験を後世に伝えようと努力する人たちの様子が、マスコミが多く伝えていました。

そんな活動の一つとして、赤穂高校が長年にわたって引き継ぎ、今は定時制の皆さんをが、「登戸研究所」のを中心にして研究している、「平和ゼミナール」の活動を、多くの新聞がこの記念日の特集記事として取り上げてくれました。

これからも本校の大切な活動として、戦争に翻弄された人たちのことを後世に伝えることの大切さを感じるとともに、みなさんと一緒に、平和の大切さを改めて噛みしめたいと思います。

高校生にとって、この 2 学期は行事が立て込んでいます。クラスマッチや、競歩大会、修学旅行など、大きな行事が多くあります。

3 年生にとっては、進路を具体化していく大切な時期になります。また、1・2 年生は、今までの学習を元に、さらに学びを進化させていく時期にあたります。

一方で依然新型コロナウイルス感染拡大が続いています。引き続き、生徒の皆さんや、みなさんの家族、友達などの安心安全を最優先に学校生活を送っていかねばなりません。

いつもどおりの事が出来なかったり、何かと不自由な思いをしたりと、不満や、不安が重なることがあると思います。

こんなときだからこそ、1 学期、みなさんが、文化祭やクラスマッチで、その力を見せてくれたように、自分たちにできる今のベストは何か。どう乗り越えていったよいか。そんな前向きの発想で学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

「ピンチは最大のチャンスである。」赤穂高校のみなさんに何度もお話してきました。

現在のパナソニック、松下電器を作った松下幸之助さんが、会社を潰しそうになっている、ある会社の社長さんに、こんなことを言ったそうです。

「ピンチから這い上がるチャンスは、ピンチになる前に考えていたことから生まれない。苦しみに鍛えられ、それが薬となって次の対策が生まれる。」

コロナのピンチにも、必ず終わりが来ます。アフターコロナという言葉がありますが、コロナの前の生活に戻るという意味ではなく、これを機会に、新たな過ごし方、生き方を見いだすという意味だそうです。

みなさんには、大切な2学期、出来ることから、新たな価値ある高校生活を生み出してもらいたいと思います。

コロナにはくれぐれも気をつけ、みんなで元気で過ごしましょう。以上で終わります。